

# みんなの顔が見えるまち

人権シリーズ vol.8

## フリーフェスタ FREE FESTIVAL 2006 中高生のエネルギーで国東市を活気づけよう！

12月10日(日)、アストくにさきで、国東市内の高校生を中心に企画された「フリーフェスタ2006」が開催されました。これは、8月から約4カ月の間行ってきた高校生リーダー研修の成果発表の場で、ボランティア・スタッフに中学、高校の生徒や一般の方々から約100名が参加して実施されました。

市内小中学校によるステージ発表のほか、やよい会によるお茶会やバザー、子どもの遊び場として小型機関車の乗車コーナーや科学の祭典、昔の遊び体験やちぎり絵など多くの催しが行われ、子どもから高齢者の方まで500名ほどの来場があり、賑わいを見せていました。



▲小原小学校の皆さんが作製してくれた横幕を手にする実行委員の皆さん(前列左から3人目が実行委員長長の鹿島さん)



▲小原小学校の皆さんによる手話コーラス



▲子ども達に楽しく科学に触れてもらおうと開催された「科学の祭典」

### いろんな収穫がありました

私たちはこのイベントを運営するにあたり色々なことにおつかり、一回りもふたまわりも成長することができました。準備中には大人の方々に迷惑をかけてしまいました。そうした支えがあったからこそフェスタが成功したのだと思っています。

出演してくださった団体の皆さん、本当にありがとうございます。ご迷惑をおかけした部分もあり、申し訳ありませんでした。来年もこのようなフェスタができればいいな、と思っています。

次に続く子どもたちのためにも、また協力をしていただけたら嬉しいです。今回、このフェスタに関わっていただいた全ての方々に対し、本当にありがとうございます。

FREE FESTIVAL 実行委員長

鹿島 実紀(国東高校2年)

ずの親による児童虐待、未成年が狙われた性的犯罪など、あー、日本はいつだってうなってしまうのか…と悲しくなりますね。こんな時だからこそ、みんなの力で、なんとかしなければいけないと思うのです。私たちに、社会人として、大人としての責任があります。一人ひとりの人間として、お互いを思いやる心があれば、殺人・自殺・虐待などの事件は起きないのではないかと思うのです。今の世の中、ストレスの時代と言われています。パソコンや携帯の普及でメールの送信が日常化されて、声を発しなくても用事が済む時代…。でも、ちょっと何か違う感じがしませんか？ 人が人が声を発し、会話をし、気持ちを通じ合わせるものが少なくなると、ますます孤独になってしまふ感じがします。なんだかとても淋しいですね…。

せめて、国東市では、そんなことがないように、家庭で、学校で、職場や地域で、みんなが声をかけ合いながら、安心して暮らせる地域でなくてはなりませんね。みんなで、一人ひとりを大切にして、互いを認め合って、協力し、地域社会を築いていきたいですね！

今、市では国東市男女共同参画計画案を策定中ですが、現在の社会が複雑になっており、また心を痛めてしまうことがあったりします。委員一同、国東らしい、そして安心して暮らすことができる計画づくりを目標にしています。

本年もどうぞよろしくお願いたします。《今回は新年号ですので、係としての思いを少しお届けしました。》